

# TALK OF KOBE

街のおしゃべりへ1

え・榎 忠



## 橋

の下のルンベン、とは昔の話。昨年秋頃からフランコードに起居する話題の同僚ルンベンあり。

六甲おろしにもめげず健在。年の頃は五〇歳位か？ 二人とも同じように顔がひからび同じ目をして。

はじめ、花時計向い三和銀行の入口、石段のぼった台の上を食堂に、ガス灯に似た二灯の明かりに照らされて、弁当を食べたり、炊事したり。味の素も持っているその後北風を避けて、国際会館アーケード閉店後のシャッター前が寝所。重ねの厚着に背をこごめ、無言でゆつくりと動く様子は鴨井玲描く静止した刻のよう。黒のボストンバッグと夜具の包みが持ち物。夫は大きな黒いガマ口を出して、お金を妻にわたした。妻は寝床の準備を始めた。コンクリートの上にラクダの毛布一枚、二枚、三枚。その上にピンクの薄い布団を重ねる。その間夫はまわりをじっと見回す。紙屑一つ落ちていれば、それをじつと見つめてから、ひろい、車道まで捨てに行く。キャラメル一つの包みでも見逃さず、一つ一つひろっては捨てに行く。その内ズボンがすり落ちて、寒風に裸のお尻が顔を出してしまったが、あわてず紙屑ひろい。絶対に一往復で一コしかひろわない。トイレは交差点の曲り角、あと、ひとゆらすでもなく……家路急ぐ人たちに背を向けて、無限に続く時間をおしみなく使う。妻は背の荷をほどくのに三〇分費した。

翌晩十時半すぎ、国際会館前、ピンクのふとんの上に

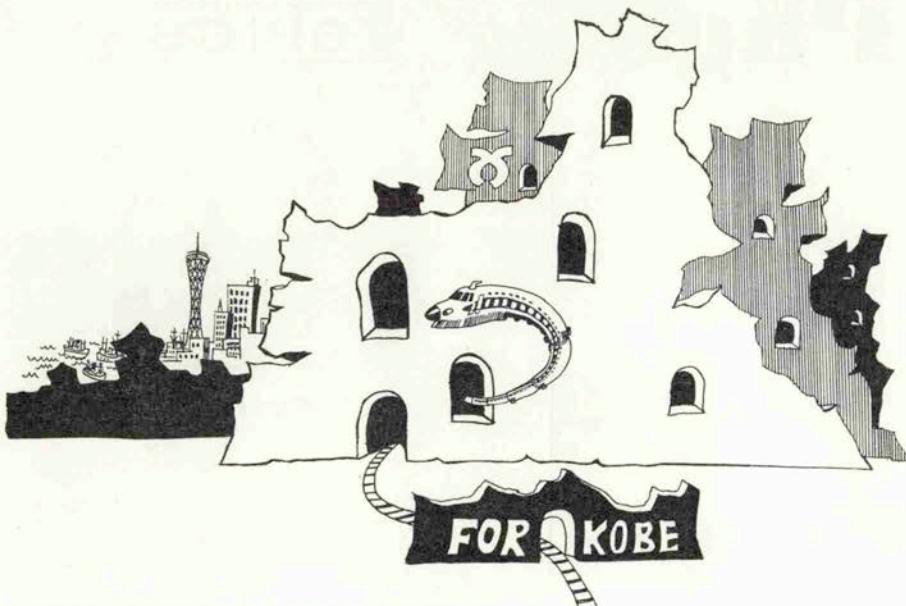
黒いオーバーをのせ、顔にチエツクのスカーフをかけ、ひとつのもあるいふくらみになっていた。ピンクの布団の裾から黒い足袋がちらりとのぞいていた。  
八の字ヒゲの画家風ルンベン、昔ながらの和服じいさん、ブラウスを前後反対に着たり、帽子をヨコチヨにかぶつたり、どこか神戸的(?)センスの女性ルンベン——



フラワーロード 静止の刻

脱マイホームをはかる三宮住人。

世の中、おてんとうさまは東から上り西へ沈む。窓は西面のみ、全面反射率の高い総ガラス張り、十二階建ての明治生命ビル、大丸方面から歩いて来ると、バーンの東の空にひびえる。夕刻、ね、夕焼け映つてきれいヨ！“なんて……ウマイですねえ。フランワーロード



山陽新幹線。神戸で顔を出すのはホームの端から端までの間。

の兵庫トヨタ、北野の山並さえぎつて建造中の日本生命ビル、最近大きなビルが神戸の街にも多くなった。

絶対に若者の味方と自認している人、ギヨーナを食べに行こう、高架北道路、サンセット・ストリートに「珉々」と学生ギヨーナ「赤万」支店が隣り合わせに並んでいる。ただし、メニューはギヨーナ、ビール、冷や酒のみ。

高速神戸線高架下の商店街歩道に、最近各種の木がすらりと植えられ、緑濃く賑やかになった。何の木かなどよく見ると、ラカン模 $\text{¥}45,000$ 、黒松 $\text{¥}5,500$ 、格南天 $\text{¥}450$ ……、値段もついていた。

そんちかタウンとさんプラザ地下をつなぐ連絡通路が完成。「きれいになつた」「大阪的で嫌い」と世評様だが、通路両側のウインドー、その店のセンスが一目でわかる。前はガラガラだったのに、この頃は昼飯食べに行っても、満員でねえ」とは、さんプラザ階上に勤めるサラリーマン。

連絡通路で、女の子足をそろえて、それを男の子が手を引っぱってすべて行つた。靴の皮底のちびた人は買ひ替える前にここへ来よう。少しぐらい童心にかえれるヨ。少し水をまいて皆ですべろう。

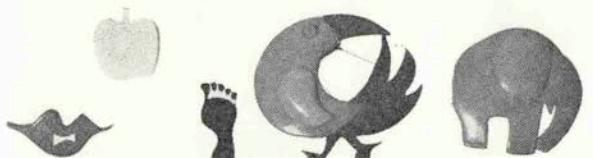
アーミー・ルックに統一してラブ・ピース、神戸の街にも氾濫、バッヂを服やかばんにつけるのから、ハンカチ、筆箱、ノート、下敷、袋、食器、まり、紙ばさみ、くし……物みな全て笑つてゐる。どちらも反戦から生まれた流行。

# ple's Page

★岡田淳さんの自費出版作第3弾  
『個人的ピラミッドへの挑戦』完成

どこまでも地平線が続く画面にボンと男がひとり現われて、だまつて石を押している。そんなストーリーで始まるこの絵本。本誌の連載マンガ「マリオネット」も終つて新企画にとりこんでいる岡田淳さんが、12月の下旬、「星どろぼう」から4年目に自費出版の「個人的ピラミッドへの挑戦」という絵本を完成させた。

ピラミッドというのは王様が自分で自分のピラミッドを作るといふと。もしかしたら途中で死ぬかもしれない。しかし、その作りあげる



★ファニー

★象や鳥や口びるや足やアップルやカンガルーやいろんなバッヂを春のベストやかわいいコートに付けて楽しんでみては?



橋本さんの作品の前で左・白井さん右・橋本さん

## バッヂのいろいろ



★ファミリア

## ギャラリー

### ★13人展のなかから

ギャラリー錦で12月5日まで開かれていた13人展のなかで、ある芸術家の死」と題して、人間の下半身が血にまみれて置いてある作品を造った橋本清考さんと、昼夜の時計の音と苦痛の叫び声を録音した白井あきおさんの作品が目を引いた。入ったとたんに一番奥の黒ワクのガクブチの前でご焼香をと言われたグループ展。

## TOPICS



週刊“月光仮面”編集者  
村上知彦（20）

黒いコートの衿になにやらバッヂワークをほどこした姿で、足音をしのばせるようゆっくり歩くのが彼の癖らしい。

関西学院大学2年生、夏の終わりに少女のとき長い黒髪をバッサリ切り落した。週刊月光仮面に登場するGYA大学で一番髪の長いヤツを探せ”という言葉も通じなくなつた訳である。

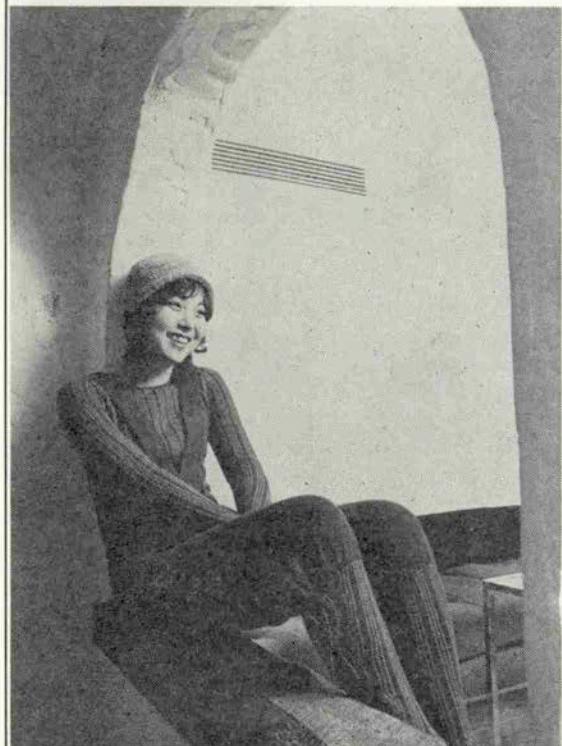
ワラ版紙3枚程、ガリ版刷りの手作りミニコミ誌。70年の12月13日創刊。東京の月光仮面（黒井孝人氏）が10日程前にでき、それに負けてなるものかと始めたらしい△元祖

月光仮面は去年の一月につぶれる▽それまでは、『落書き反戦』を名乗つていて、おもにトイレのなかに落書きをしていたとか。その痕跡は欄外の走りがきに認められる。月光仮面や、谷岡ヤスジのマンガあり、ナイーブなエッセイあり、むづかしい社会論あり、のつてしまつた走りがきあり、雑然と大学の生活を書きつづけている感なきにしもあらず。去年の夏には東京の読者を一人づつ訪問して、またまたファンが増えた。最近、全国月光仮面共闘結成宣言をミニコミ誌ジャム&バタの誌上で行った。

## DREAMER



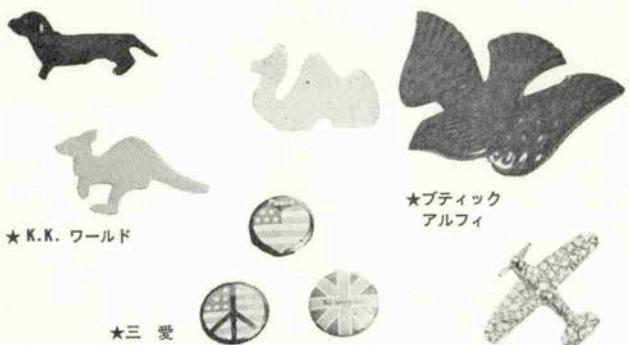
前岡治美さん(ニットデザイナー)  
デリケートなセンスで大胆な  
デザインのニット作品をつくる  
ジミーは目のきれいな人。  
黑白のアトリエはちいちゃく  
て3人居ると満員。お金を持  
たせると一銭残らず使ってし  
まう経済観念0の彼女。ニッ  
トのオーダーもやってくれる  
TEL 521-7252



# Green Ap

■という幻想に向かっている。その手  
ざわりみたいなものを表わしたい。  
絵本中、他の男が一人の男と同じよ  
うに何かを押してるのも形は違うけ  
れど、やっぱりピラミッドに向かっ  
ているんですよ、と岡田淳君は一例  
をとってこの絵本の内容を説明して  
くれた。この絵本をつくるのに経済  
的なこともあつたけれど最初の案か  
ら2年もかかってしまったので、  
次はちょっと軽いものをやりたいと  
のこと。JUN君ファンの方ぜひ買  
うべし!

お求めは神戸っ子編集室▲TEL  
(221)7037▽またはKOBE  
BOOKSでどうぞ。A4版黒一色  
刷り。定価500円、1000部限定



★ブティック  
アルフィ



神大のオブジェ

★植松塗二個展

11月17日～29日、大阪のギャラリ  
イモリスフォームで植松塗二さん  
の個展が開かれた。神戸大学教養学部の一隅に置かれ  
るオブジェの出来あがる過程を写  
石器時代の墓ドルメンに魅せられ  
た植松さんの空間への挑戦は次  
々と展開していく。

# ぴっと・いん



レンガがシックな仏蘭西屋と和蘭陀屋

西洋舶来ムードを創るの  
がお得意のエドワーズ商事が、十二月一日、生田新道  
全但三宮営業所東隣りの英國山側に、洋風割烹「和蘭陀屋」(露三一、一〇二、三〇)を一階に、二階三階  
は、洋酒肆「仏蘭西屋」(露三二、一〇二六〇)を開店  
「和蘭陀屋」は長崎の和蘭陀屋敷風で、南蛮画や、明治時代の大私服や時計が飾られた異国情緒たっぷりの  
店内。明治風ステーキ(八百円)、南蛮風ステーキ(三百円)に白鶴(三百円)の生一本、天沼ビアザケ(三百

円)オールドウイスキーW(六百円)等といつた値段  
二階はスタンド、三階はクラブの「仏蘭西屋」は、スコッチウイスキー(千五百円)、ブランデイ(千五百円)が小びんでてくる。クラブには仏蘭西の泰西名画などがかかってシックでゴージャスな雰囲気。英國屋となると、船を横丁の楽しげが出てきたようだ。

## ★安らぎの灯を

若い人達に人気のあるスネカジリッズの姉妹店「點燈屋」が、十一月二十日、生田新道金馬車の東の小路を北に入つた。れいんぼうビル地下(露0783310393)にオーブン。ドリックにかかる人には、瓦斯灯(元京都・日本銀行のもの)が店内にシンボリックにかかっている。

ビール(二五〇円)、オーブン(四〇〇円)、オーブンパン付、鍋やき、煮込みパン付、鍋やき



花屋敷

「點燈屋」は、瓦斯灯に灯を点して廻る人のことで昔懐し瓦斯灯(元京都・日本銀行のもの)が店内にシンボリックにかかっている。

「點燈屋」は、瓦斯灯に灯を点して廻る人のことで昔懐し瓦斯灯(元京都・日本銀行のもの)が店内にシンボリックにかかっている。



ガス灯が楽しい點燈屋

おしゃれなエトランゼが通うアロードのレストラン那寿は、一階はハイセンスな喫茶店。階段を降りると暖かい雰囲気のレストラン。フランス料理の舌ヒラメのボ

リズムにゴーゴーを踊りミニチュアのチャーミングなウエーブレスがサービスしてくれます。十二時から七時三十分までティータイム(コーヒー・紅茶・コーラ各二〇〇円)午後八時から午前二時

まではドリンクタイム(チラージ三百円、水割オールド五〇〇円、ビール三〇〇円)でバンド演奏がはじまる。

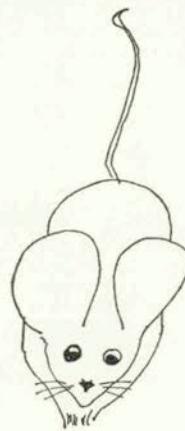
●神戸うまいもんとドリンク

レストラン「那寿」  
アロード高架少し上の  
TEL 391-1873



◆那須の店内

シファム(700円)ビーフロマージュ(900円)などがお得意料理。ワインはシャトーマルゴーの1953年ものある。昼食事にはAランチ(260円)とBランチ(400円)が好評。ちよつとおしゃれな夜に彼と二人でぜひどうぞ。



あけまして  
おめでとう  
ございます

SNACK

**jūn**

神戸市生田区中山手1丁目91-73  
TEL 331-2361



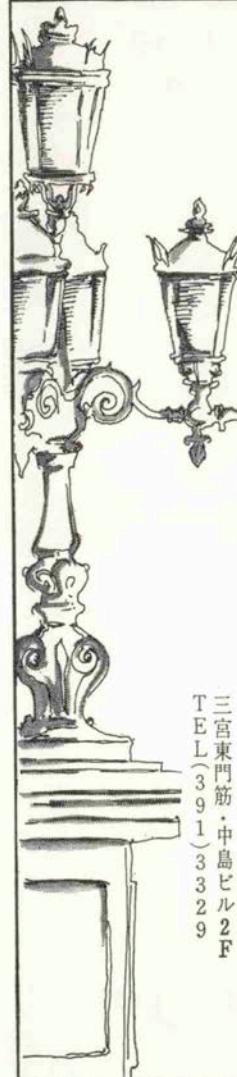
あけまして おめでとうございます

旧年中はお引立てありがとうございました。

新しい年も、心に灯りをともすような暖かい店づくりをと  
ねがっています。相も変わらずご愛顧くださいませ。

クラブ・ガーデニア

三宮東門筋・中島ビル2F  
TEL(391)3329



’72 謹 賀 新 年



〈北欧ヴァイキング料理〉

2000円（税込み）

飲みほうだい（サントリー純生ビール）+食べほうだい  
(クラウン・コーラ)

一品料理、日本酒も準備いたしております  
同窓会など各種パーティにご利用ください



なごやかなムード

すばらしい眺望！

スカイサントリー

三宮交通センタービル 9F TEL (391)3705~6

アサヒビール特約代理店



謹 賀 新 年 1972

酒類調味食品問屋

神戸酒類販売株式会社

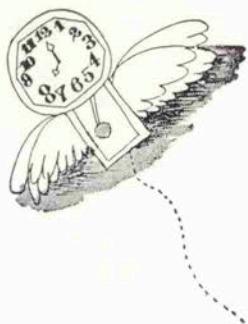
本店・生田区中山手通1丁目76

TEL (078)321-0201(代表)

支店・西宮・垂水・兵庫

● お酒の殿堂

神戸百店会  
だより



★中川衣裳店新装オープン

花嫁衣裳のことならなんでもという中川衣裳店のセンター街本店が十一月二日、華麗な姿でお目見得した。



花嫁姿のウインドー

ラウンドショップ・クリスマスバザールが行なわれ、マジオカ・シラサ・エスター・ニュートン・みよし・や・オカダ・元町バザー・タジマ・



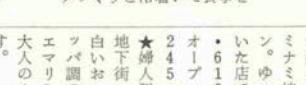
にぎやかなラウンドショップバザール

★和風レストラン

白い障子に望月美佐さんの「花くま」の字が新鮮な印象の「花くま」が、11月の末日オープンした。永い間閉めていた古紋を赤いじやうたんとモダンな椅子に衣がえして、かわいいジユ



渡辺の各店のお得意さんを集めてのこの催しもの、今年はスギヤがお休み。2日間で約一、三〇〇人が押しかけ、盛況だった。来年の春のバザールをまたお楽しみに……。



ゆっくりと落着いて食事を

★セリザワ

恒例のラウンドショップクリスマスバザール開催命ビル12階ホールで今年も12月・1日2日と明治生

命ビル12階ホールで開かれるので、春に挙式なさるレディはお見のがしなく。洋装サロンでそれおもむきをかえてたつぶりと貸衣裳がそろっている。

また新春の花嫁衣裳展示会が、一月九日にニューポートホテルで、二月六日に

オリエンタルホテルで開かれるので、春に挙式なさるレディはお見のがしなく。

冬の足音とともに聞かれ

たセリザワの第2回ハイ

アッシュンバザール。明治

生命ビル12階ホールで11月

23・24日と行なわれまし

た。冬のコート・ワンピー

スなどがずらりと並びハモンドミュージックの軽快な流れのフロアで、舟木加代・岡田由利・松村佐和子さんの3人のモデル娘が優雅にハイファッショングの

ひろう。またお客様の注文に応じて服を試着してみせたり、パリのサロン風の

バザール風景でした。

●ショップトピックス

★12月1日よりUCC上島珈琲本社が久留米営業所を開設しました。久留米市通町四丁目一二〇番地TEL〇九四二二〇五〇五〇六です。

★ネクタイの元町バザーがJ・コントフォート(英国)のネクタイを新しく入荷しました。綿うらネクタイで綿でも新しい加工をされた素材をつかっており、とても締めやすいのが特徴。ネクタイの柄も中柄でとてもシックです。

★舶来服飾雑貨のエスター・ニュートン(トアロード)にドライバー向けの煙草ケースがあります。裏に磁石がかくついてて金属面にビタフとくっつく。その反対側には湿度計もついています。赤と黒の皮製があつてイタリア製。¥2400。

★婦人・紳士服飾セリザワが大阪ミナミ地下街・虹の街・オーブン。ゆったりしたスペースで落着いた店です。TEL〇6・213・6165又、心斎橋パルコにもオープンしました。TEL〇6・245・1465。

★婦人服飾のベニヤが大阪ミナミ地下街・虹の街・にあなただけの白いねへやを創りました。ヨーロッパ調のブティックには、アトリエマリ、のスープなどもよつびり大人のムードの商品を揃えています。

TEL〇6・213・6128

★ボンヌール写真室では、29・30日はお休みですが、お正月の3日

間に営業。ぶりそで姿やご家族の

お正月写真を写していかがでし

よう。費用は6000円からです。

★そこうパレロワイヤルの新春バ

ゲンセールは一月十八日に、ニ

ューポートホテルで行なわれます。

舶来雑貨、インテリヤが半額に近

## ポケットジャーナル



### ★神戸まつりの歌とシンボルマーク決まる

かねて公募中の神戸まつりのうた（歌詞）とシンボルマークが決った。シンボルマーク七五九点音頭九八点、ヤングむけ歌詞一四一点の応募の中から、シンボルマークは芦屋市の寺戸千賀子さん（20才学生）の作品が採用と決まり、デザイナーの石村正太郎氏の手によつて補作されたものが今年の神戸まつりから使われることになつた。

「神戸まつり音頭」は垂水区の井上美恵子さん（23才）の作に、「ヤングむけ歌詞」は新しく決まったシンボルマーク

は東灘区の安藤勝之さん（34才）の作に決まり、前

者は中村茂隆氏（神戸大助教授）、後者は小曾根実氏（ハモンド奏者）によつて作曲され、レコードにな

る。

今年の神戸まつりは5月20、21日の両日にわたつておこなわれるが、これらの市民の手によつてつくれたマークとうたが、新しい神戸のまつりに色どりをそなへることになった。

### ★浩宮さま、神戸を初訪問

岡山・兵庫両県を社会見学でご旅行中の浩宮さまが十一月九日、明石天文科学博物館をご見学の後神戸に立寄られた。九日の夜は六甲オリエンタルホテルに泊られ、十日朝から六甲高山植物園を見学された後、日本一長い六甲有馬ロードウエーから紅葉の美しい六甲山のながめを楽しめた。その後、摩耶第四埠頭では



挨拶をする坂井県知事



神戸港を見学中の浩宮さまと宮崎市長

### ★兵庫県知事一周年を迎える

坂井知事がフレッシュ登場をして一年、「人間ルネッサンス」を唱えて、青年の船「や」兵庫県文化祭」ち

かわいいわ」という声があがつていた。

彼らは、全国の精神薄弱弱化活動を通じて、全国の精神薄弱弱化活動を永年勤続し、除の力となって献身的にこどものために働いてこられた職員に表彰状と賞金を贈ります。

②地域社会啓蒙活動資金：三十万円。全国各地で精神薄弱弱化問題の啓蒙をより効果的に行なうために、各友会などの活動を強化助成する資金です。

③広報啓蒙資金……………五十万円

本運動の目的である精神薄弱問題の啓蒙活動を推進する資金です。運動のしおりやビラの費用、啓蒙行事の費用など（季刊五万部発行）です。

④事務所運営資金……………二十万円

本運動の事務所運営資金年間七十万円の中、二十万円を献金から補助します。

誕生日  
ありがとう  
運動



誕生日ありがとう運動本部  
神戸市合併区御幸通八の九の一  
神戸国際会館 一階郵便局前  
TEL（二五二）八一六一  
内線二五八



て会場全員が合唱するといふ樂い雰囲気。ピアノの  
おさらい会から一步前進してユニークなこの会は、子  
供達にとつても印象深いものであつたろう。

★小坂務作曲の

「小さなクリスマス」を

新谷のり子が喰る

祝おうというわけで、和製クリスマスソングが生まれ、好評を得ている。

「小さなクリスマス」がそれを第一として初年度に一五カ年計画でキャンペーンに取り込み、洋盤の「ホワイト・クリスマス」「ジングルベル」をしののういう構想のもの。



小坂務之

詞は多木比佐夫氏(豊中市)、作曲は小坂務氏(西宮市)。小坂務氏はきれいなメロディーの作曲家として注目されてはいたもののマスコミではじめを舞台にするのははじめて。

神戸の一九七一年は今までにない激しい動きの渦中に巻きこまれるものと予測される。

文化の年に  
いみこ

一九七一年十二月三十日  
日の夜、十二時。神戸に停泊中の大小の船舶  
がいっせいに汽笛を鳴らす。一九七二年の夜明け  
である。

わざわざいいこころで  
だが、大切なのは文化  
環境のプログラムづくり  
ではないかと思う。  
文化行政というのが神  
戸市だけ、兵庫県だけで

Y

★ファツシ  
省吾さんが  
ドに、サロ  
ニシを一階  
四階は工場  
ルを建築。  
えました。

ヨンデザイナーの中西  
、十二月三日トアロード  
ン・デ・モード・ナカ  
にサロンを二階に、三  
と五階は自室と中西ビ  
トアロードに新風をそ

B面は、岩谷時子作詞、いすみ・たく作曲の超大物コンビで、「小さなクリスマス」のよさを認めて、御大いすみ・たく氏が自らB面に下つたといふやうな珍しい企画、どうやら静かなブームを起こし、年末西で數十回、11PMで十数回放送されている。

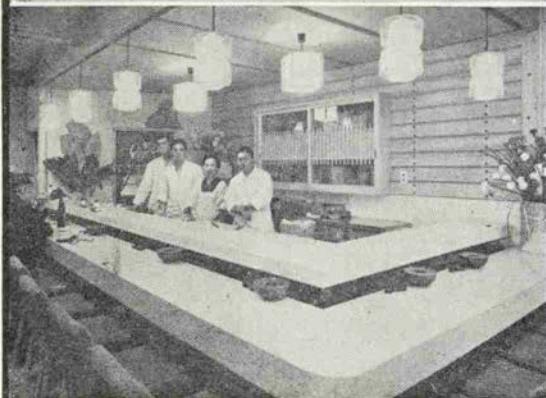
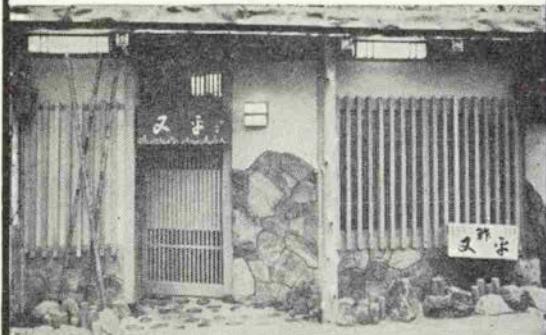
日本人に日本のクリスマス・ソングを――といううきの珍しい企画、どうやら静かなブームを起こし、年末には大当たりをとりそうな気配が十分。

また小坂さんは十二月十九日、「ニユーヨークジャズオーケストラ・リサイタル」を開き、ミュージカル「明日からの幸せ」を作曲、神戸つ子の麻鳥千穂が主演して楽しい舞台をくりひろげた。

★鴨居羊子  
日、大阪北生した新し  
の1階に、  
店されまし  
今まで、文  
の果までの  
ファンタス  
す。住所は  
メタボ阪急  
九段  
★美術評論  
このほど、  
その人と芸  
上梓され、  
発売以来早  
います。  
ンタービル  
版記念会を  
ました。ま  
増えお若い  
★十二月二  
周年記念会  
氏を招き  
太郎傳ふ  
★元京南  
支太郎傳ふ

KOBE POST

ゆったりと落ち着いたスペースで  
新しい“味”をご賞味ください。



# 鮓の又辛

神戸三宮生田ノ社ノ西  
電話・三の宮 (331) 0935



おいしさが  
口いっぱいに  
ひろがる……  
本場の味



- 三宮センター街柳筋店  
TEL 321-3446・331-0572
- 新開地店  
TEL 576-1191
- 平野店 (平野市場内)  
TEL 361-0821
- 三宮センター街サンプラザビルB1  
TEL 391-3793

# キリシタンの墓

## 小山牧子

### え・石阪春生

### 修羅 3

あらすじ 二年前短期大学を卒業した佳は、母蘭子との生活に思つまりを感じ、米国系海運会社のエイジェントに勤めに出ることにした。ある日佳は顧成寺の墓地の暗がりで会った村重船長と名のる老人から、偶然自分の父村裕作の過去を知る。その父が久しぶりに航海を終えて神戸に帰ってきた。が、母蘭子の冷たい態度に佳の心は複雑だった。そんなある日、佳は新聞に蘭子の短歌が載っているのを見つけるが、まさしくそれは裕作の初恋の女性、故由佳子の短歌の盗作であった。

歌誌『せせらぎ』主幹様

突然にこのよう匿名のお手紙を差上げます失礼を幾重にもお詫びいたします。私は貴誌とは直接のつながりは無いものでございます。しかしながら、身の内にほとばしる正義感と、ある複雑な、しかも激しい感情につき動かされて、ペンを取ります。いまあなた様にお手紙をいたしますこの私の手を支えておりますのは、私自身ではございません。黒い魔性の力が、私の手を遮二無二、動かしているのでございます。

ここまで書いたとき、佳の右手は激しく震えた。

止せ。佳！お前の骨内ではないか。

胸の洞の奥深くから囁きかけてくる強い声がある。佳は、その声を断ち切るように、強くかぶりを振つた。

だつて、パパがあんまり可哀そうなんだもの。

涙が佳の両頬に筋を引いて流れた。

居間の絨毯の上にうつ伏した父は、佳の力だけでは動かしようがなかった。蘭子の力を借りようにも、自室に引きとるときに見せた裕作への侮蔑にみちた表情をおもいだすと、頼みに行く勇気も出ない。で、仕方なく、絨毯の上に広がる汚物を拭き取り、すぐに他愛なく眠り込んでしまつたらしい裕作の身体にタオルケットを掛け、佳もまた自室に引きとつたのであるが、眠れそうにもなかつた。館をとり開む深い森の静寂が、奇妙なざわめきの波調で佳の耳に伝わり、佳をいらだたせる。眠られぬままに、佳は獰猛な獸に似た心を抱いて部屋の中を歩きまわった。猛々しい心とは対照的に、柔らかい感性の部分は、父が帰館した夜、娘に触れたあの優しい掌の感触をおもいだしていた。あの夜の記憶は、背徳の情念となつて、佳の身体を熱く火照らせたりもするのだ。が、猛々しい心の方は、父への愛が嵩じれば嵩じるほど、それによつさわしい強さで母の蘭子を憎んでいた。この荒れる獸のような苦しい心を、館を閉む深い静まり返つた森の奥に追い放してやることはできないか。否である。

馬鹿らしい。何が伝統に生命を吹き込むんだ。盗作という最も恥すべき行為さえも、ねじくれた理窟をつけ

て正当化する、ママのぬけぬけとした狡猾さは許せない。パパと同じように、わたしだって絶対に許せない！

いつか蘭子に対する憎悪は、佳の胸のうちで一点に凝縮はじめていた。

——盗人猛々しいにもほどがある。気の弱いパパが悪酔いしてしまうの当たり前だわ。

佳は、父の凜々しかった日々をおもい返していた。

巨船を港の頑丈な両腕の中にゆだね、ランチボートから若い獣のように敏捷な身のこなして岸壁に飛びあがり、黒いがっしりとしたシルエットを佳に近づけ頬笑みかける。長い航海を無事に終え、重責を果たした自負にふくらんでいる生気のみちた父。佳は、そこにいつも理想の男を見ていたのではなかつたか。が、その父が、なされほど挫けてしまつたのだろう。すべての原因は、

蘭子にある。そうだ、蘭子にあるのだ。

すべての原因が母の蘭子にあるという発想が、少し大仰に過ぎると氣付いたとしても、佳は今夜、酔いつぶれた父を蘭子が辱しめた、そのことのためだけにでも、父に代つての復讐をおもい立つたであろう。

散漫と散らばつていた蘭子への憎悪が、尖つた結晶体がゆっくりと同じ方向へ施回しはじめ、施回しながら一つの堅い大きな核へと凝縮してゆくあの同じ運動律で、

憎悪は復讐という恐ろしい想念へと凝縮してゆくのだ。窗外では、雨氣を含んで垂れ込めていた乳色の大気が、目に見える速さで動いている。乳色の大気もまた、同じ一つの方向を指して渦を作つてゐる。やがて、天を大きく切り裂いて降るかとおもえる驟雨が大地を襲うのだろう。

佳は、再びペンを取つて書きはじめた。

ほかではございません。いま歌を詠む人達の話題に登つております村林蘭子の新作についてなのでござい

ます。

あの歌は、ほんの少し言葉のアヤを変えただけの盗作であるということをお知らせ致します。

村林蘭子の作となつております歌の本当の作者は、古くから歌作に励んでおられます方々の中には記憶しておられる方もあるうかと存じますが、二十五年も以前に世を去つた、姓はまだ知る機会を持つていませんが由佳子という名の歌人であります。

由佳子という人は、長く病床にあつて歌作に励んだ人でありますためか、他とは比べようのないほどの抜きんでた才能の持主でありながら、表面に立つた活動を好まず、作品も古い日記帳の中に埋もれている場合が多いので、村林蘭子という売名乞食のよう歌詠みの餌食になつたのでしよう。由佳子は、村林蘭子とも比べようもないほどに心の清らかな、身近にいる人々にも細やかな愛情を注ぐ人であったと、古い記録に残つております。



このように、一人の世に認められた歌人を葬るかも知れぬ重大事実を、匿名という卑劣な方法であばく私

の人格への疑問をまずお持ちであろうかと考えます  
が、いまは私の名を明かすことも、これを書くに至つた動機を語ることも致しかねます。しかし、私が村林蘭子ときわめて近い関係にあることは事実です。

ただ一つ、私が自分についていえることは、私が悪を憎んでいるということで、才能のとほしい人間が、世にのさばることを見かねての行為であるとしておきましようか。念のために申しておきますが、この密訴は決して嫉妬からでたものではありません。従つて、私は村林蘭子の歌仲間ではないわけです。

私がお知らせした秘密を

裏付けるために、由佳子が  
残した手記ノートを封入いたします。蘭子が発表した近作と全く同じ歌が、手記の中にちりばめられ、清冽な光を放つておりますことに目をお止め下さい。

佳をかりたて、この手紙を書かせいたのは、佳自身の心ではないようであつた。春の初めからの数々の事件が、緊密に結びあい重なりあつて、一人の人間を奈落へと追い込んでゆく。佳は、何者か、人間以外の邪悪な力によつてその宿命の道を歩かされていたのではなかつたか。  
——パパ、可哀そうなパパ。いつもママにやり込められてばかりいるパパに、久しぶりで溜飲を下げさせてあげるわ。

この投書が東京へ送られ、歌誌『せせらぎ』の主幹の目に止まつたなら、蘭子はなん等かの制裁を受けるだろ。蘭子が生命より大切におもつてゐる名声を剥ぎ取られる日が、近く来るのだ。

失意の蘭子には、豪華な羽根をむしり取られ震えている孔雀に似た滑稽さがあるだろう。



——そのときはね、パパ。男らしい大様さでママを許してあげなさい。誰にも相手にされなくなつたママには、パパの慰めだけが必要になるわ。そうなればきっと、ママは館に閉じ込もり、また以前のように薔薇つくりに励んだり、読書をしたりの日常を取り戻すでしよう。だからね。わたしのやり方は少しきたないようだけど、パパとママの関係を逆点させるには、この方法しか無いの。パパの夫復権のためには、荒療治も必要よ。

佳は、匿名投書という形の一枚の書信が、佳たち一家を最も残酷な形で引裂くメスにならうとは、おもつてもみなかつた。軽卒に、楽観的に、すべてが佳の企んだ通りに運んでゆくと考へる、また子供の世界から抜け切れないでいらだつてゐる佳であつたが、すべての事件が落着したあと、錯乱した気持のままで、この投書という行為の背後にひそむ何者かの意志に、なぜという疑問符をたたきつけずにいたれなかつた。

なぜ、深夜の願成寺へなど行つたのか?なぜ、老人と知り合い、由佳子と父の秘密を知つたのか?なぜ由佳子の手記を読んだのか?あの手記さえ読まずにすませていたら……。が、佳は読んだのだ。いま、何者かに読ませられていたのかも知れぬ。それは、誰だ。誰だ/突然に驟雨がきた。それまで静まり返つていた森や大地がいっせいにざわめき立ち、鎧戸をはずして窓に、滝のようく雨水が流れ落ちた。窓辺に立つと、漆黒の虚空に煎りつけるよう激しく雨が鳴つてゐる。やがて、白い光が漆黒の虚空を裂き、遠くから雷鳴が響き渡つてきた。

一瞬、光の中に浮きあがる森と空と樹木たち。凝視する佳の目に、森は黒々とうねり、その森を包むように、

雲は厚く垂れ込めていた。風景は、すぐに闇にのまれ、やがて再び白い光が闇を裂き、風景を浮きあがらせる。それは、梅雨明けを知らせる雷雨であった。

窓外の風景に、何常目かに光がみちたとき、浮きあがつて消える樹木や森の姿をあきすに凝視していた佳は、狂った女の髪の毛を連想させて乱れる樹木の梢を巧みにすり抜け飛ぶ黒い鳥の姿を見たとおもった。

あれは、脇坂紫峰の九官鳥！

弔旗の断片のようだつた鳥の體をおもい起しながら標然とする佳は、右手にしつかりと書きあげたばかりの投書を握りしめていた。佳が鳥の姿と見た黒い影は、吹きはじめた風と激しい雨の中にそぐわぬゆつくりとした動きで、佳の視界から消えたのであったが、それはあたかも、佳を手招いていたよう見えたのである。

どのような罪の意識もなく、佳が放つた黒い矢は、適確に中央の短歌界に君臨する歌誌『せせらぎ』の主幹を刺した。すでに初老に近い男であったが、眼光爛々、まだ激しく怒る若い心を持つてゐる主幹は、蘭子の盗作事件を、佳が予想していたよりもはるかに衝激的に受け止

めたのである。

佳が投書と由佳子の手記を投函してから一週間が経つたぬある日、『せせらぎ』短歌会委員全員の連名になる会からの除名通達が、蘭子あてに届いたのである。

更にそれだけでは心がおさまらなかつたのか、主幹は、大新聞の例の蘭子の盗作々品をれいれいしく掲載してしまつた短歌、宗教の特集ページに三分の一ほどの紙面をさいて、短歌の盗作問題に関するエッセーを発表した。そのエッセーの中では、具体的に名前まであげて戦後、宮廷の歌会で最後の選に残つた作品が盗作であったことなど及ぶかぎりに書き、当然、蘭子の事件も大きく取りあげられていたのである。

短歌という文学ジャンルが、年と共に華やかな世の脚光をあびる存在から、第二芸術的な自己充足的な弱い存在にすり落ちてゆくことにいらだち、新しい才能が育たぬことを憤つていた血の熱い主幹の盗作事件を裁く筆には、なんと強い悔蔑がこめられていたことか。特に期待をかけていた蘭子に対する裁きはきびしく、蘭子はこの過ちによつて、完全に短歌界から抹殺されることになつた。

(つづく)

★新しい関西を創造する総合雑誌

# オール関西

〈新年号予告〉

☆グラビア この人この時

扇千景／繁山千作／早川徳次

☆グラビア 関西の科学者

☆特集 大阪を動かす400人

☆連載対談

黒田大阪府知事と小野十三郎

☆1972年の国際政局を語る

宇津宮徳馬

☆商売の最前線

大井肉店

☆特集 1972年の展望を語る

J C 座談会

京のやど 栄家 那光史郎

連載随想 バルト海の娘

鈴江百樹

小説 海の癌

小山牧子

☆オール関西編集部

大阪市北区曾根崎一丁目三〇

八千代会館 3F 06-313-2635 • 0588

オリジナル L サイズ

革履新発売

創業明治二十一年

# 履物の山下

古い老舗に新しいセンス

確実正札 完全冷暖房

静かに品選びの出来る店

神戸三宮センター街 TEL(391)0256



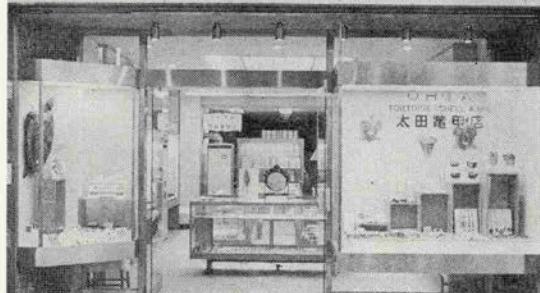
ハイセンスの紳士服で最高のおしゃれを！

## 三恵洋服店

元町4丁目 TEL(341)7290

あけましておめでとうございます

## 太田鼈甲店



べっ甲美術品とアクセサリーの専門店

## 太田鼈甲店

元町1丁目 TEL(331)6195



Mr. Kent  
came to Kobe  
流行に左右されない  
本来のオシャレ  
それがKentです  
シックな  
スコッチ風の店舗  
それがFunakiyaです

Kent shop  
**ケンキヤ**

元町3 TEL(321)0356

でんわ・  
○○三七七一  
六三三四一  
321 321 331  
コムサ三宮

やつぱりうまい  
むさしのとんかつ

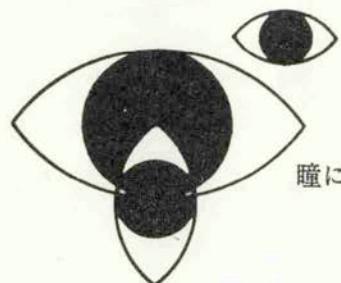
とんかつ

高級紳士服専門店  
神戸テーラー



さんちかメンズタウン TEL (391)0388  
生田区北長狭通2(阪急西口) TEL (331)2817-3173

あけましておめでとうございます



瞳に美しさを保つ  
スポーツに  
美容に  
現代の科学が生んだ  
コンタクトレンズ

日本コンタクトレンズ協会会員  
国際コンタクトレンズ研究所

神戸市葺合区御幸通八丁目九ノ一(三宮駅前)  
神戸国際会館内 TEL (251)8161・(231)2570

五

あけましておめでとうございます  
本年もどうぞよろしく

おもちゃの

おもちゃの

三宮方面でのお買物は……

さんちか店 ファミリータウン  
三宮店 センター街 大洋劇場東座  
元町方面のお買物は……

元町店 元町通一丁目山側  
元町通一丁目山側  
元町通一丁目山側

旅館  
0  
7  
0  
6  
9  
8  
0

4  
9  
4  
6  
9  
5

# 賀 正



# 酒肆 Nouvelle

神戸市生田区北長狭通2丁目14

Phone 331-9005

本年もどうぞよろしく  
お願ひいたします。

1972年 元旦

サントノーレ  
アロード (アーロード) 3月22日  
中谷衣里 えり

トアロード (391) 3822

スタンド ようらく 樂

三宮 生田 新道 農業会館南  
神戸ビル地下 TEL 331-9613



「嬢樂」(ようらく)とは、凡語で“高貴な人の持物”という意味だそうで、このお店がお客様の持ものとして自由に気楽に安らげるようになるとこころからきているらしい。

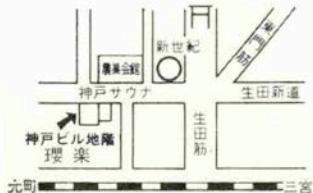
ママの西川陽子さんは、二年前に経験なしで初めてこのお店を持ったという、すごく家庭的な、日本の雰囲気の上品な“おかあさん”である。ところは、生田新道農業会館南にある神戸ビルの地下。

“おかあさん”に続く女性陣は、由美さん、明美さん、忍さんと三人がそろった女の館。

つき出しまでの館らしく、家庭的な味のタニシがでたり、いろいろ手造りの品があるので、お酒好きにはありがたい。

ついせんだって二周年記念を終えたという、静かだけど、気分の落ちつく「嬢樂」だ。オールド水割り400円。

営業時間午後5時30分より12時迄



DRINKING

グラタン小屋

5つの銅貨

神戸市生田区北長狭通2丁目14  
金剛山西入る TEL 391-1438



★床瓦に赤いグラスのローソクが影をつくり、船輪の上のランプが漁網とロープを暖かく照らす。これが贅沢を柔らかく包んだ“5つの銅貨”的なスペースだ。

鉄枠に自然石が埋まるクールなテーブルだが、膝をつきあわせて、飲もうじゃないか、喋ろうじゃないか、歌おうじゃないか、と楽しく誘いあえる。

スペイン風のランプにマリオネット、インド製の木彫のスプーン&フォーク、柱にかかる玉懸はオランダ製の装飾、それに鉄製の馬車風ローソク立て、そのどれもが、漁網とロープと光の中で調和して山小舎にいる感じを与える。ホストがギターを弾けば、お客様も歌うというなごやかなスペースが神戸の夜を一段といろどっている。

グラタンやピザ・スープが美味しい。PM 6:00～AM 2:00

